

平成22年度 課外授業講師派遣制度 活動レポート

第1回 富山県立氷見高等学校

4月21日(水)、中尾哲雄氏(株インテック取締役会長)が県立氷見高等学校において、氷見・有磯両校の全校生徒862名を前に、「高校生に求めるもの」と題して課外授業を行った。

中尾会長は、成績で思い悩んだ高校時代、恩師からの言葉「希望は遠い星の光 うつむく者には見えない」を座右の銘とし、「夢は人を輝かせ 希望は人を大きくする。夢に向かって努力してほしい」と激励した。

また、「故郷を大切にし、母校に誇りを持ち、心の支え(根っこ)をしっかりとって地域社会のために自分は何が出来るかを常に忘れずに生きてほしい」とエールを送った。

最後に、生徒全員で「ふるさと」を合唱して課外授業を締めくくった。



先生に感謝、尊敬の念を持って学んでほしいと諭す中尾会長

第2回 小矢部市立津沢中学校

5月15日(土)、新田八朗氏(日本海ガス(株)取締役社長)が小矢部市立津沢中学校において、全校生徒133名を前に、「これからの日本を担うみなさんへ」と題して課外授業を行った。

新田社長は、これまでの人生を振り返り、中学校、高校はもちろん大学、社会人そして社長になろうとも勉強の連続であった経験を紹介し、人間は一生勉強しなければならないことを論じた。その上で、茶道、武道の教えであらゆる道の修行における順序段階を現す言葉「守破離」を紹介し、今は先生の教えを地道に学ぶ「守」の段階にあり、将来に備えて基礎固めをしっかりと

り行ってほしいと訴えた。

また、受験などで人生に失敗した時には、気持ちを切り替えて再チャレンジすることが重要と呼びかけた。

最後に、21世紀を拓く人材として、①英語力、②IT、③男女共生、④グローバルな考え方の4つを身につけ、「毎日しっかり勉強してほしい」と締めくくった。



勉強は可能性を広げる基礎であると説く新田社長

第3回 氷見市立西部中学校

5月26日(水)、林和夫氏(朝日建設(株)取締役社長)が氷見市立西部中学校において、2年生35名を前に、「学ぶこと、働くこと」と題して課外授業を行った。

林社長は、経営の神様と言われる松下幸之助氏や京セラ名誉会長の稲盛和夫氏らの言葉を引用、能力は「才能」「経験」「意欲」「考え方」の掛け算からなると紹介し「才能が高くてもネガティブな考え方をすると結果はマイナスになる。ポジティブな思考が何より大切である」と強調した。

また「働く」の語源について「端(周りの人)が楽になる」と説明し、「働くのは自分のためではなく、人や地域社会のために役に立つことだ」と力説した。

そして、「読書をする」と様々な情報や考え方、書き方を学ぶことができる。ぜひたくさん本を読んでほしい」と締めくくった。



前向きに考える事が大事と力説する林社長

第4回 富山県立となみ野高等学校

6月18日(金)、堀田信一氏(日本海ツーリスト(株)取締役社長)が富山県立となみ野高等学校において、1・2年生生徒110名を前に、「社会人としての心構え」と題して課外授業を行った。

堀田社長は、21歳で創業し、今年40周年を迎えることができたのも、昔、生意気な性格で失敗した悔しさをバネに、自身が素直な心で他人からよく学び、社員一同、お客さんのために努力してきたことによるものと自身の経験を振り返った。

また、様々な情報が氾濫している中で、失敗を恐れず何事にも積極的にチャレンジし、その体験や経験を積み重ねて、自身の考え方を決定できるような判断力をつけることが大切と論じた。

さらに、元巨人軍の王選手も最初は三振王だったが、荒川コーチから一本足打法を教わり猛練習した結果、世界のホームラン王になったことを紹介し、成功はすべて努力の結果であることを強調した。

最後に、「先ず図書館へ行って勉強してほしい。将来、実社会に出たら、明るく、元気な挨拶を励行し、目標を持って頑張してほしい。人間は一人では成長できない。常に努力を重ねていれば、必ず他人から良きアドバイスが得られ、自分を助けてくれる。」とエールを送った。



「人生、プラス思考で！」と語る堀田社長

第5回 富山市立楡原中学校

6月18日(金)、林和夫氏(朝日建設(株)取締役社長)が富山市立楡原中学校において、全校生徒56名を前に、「学ぶこと、働くこと」と題して課外授業を行った。

林社長は、経営コンサルタントの船井幸雄氏の言葉から、「素直」「プラス発想」「勉強好き」が伸びる人の3要素であるとし、その理由を「人の意見に耳を傾けずに自分の意見を押し通す人」「後ろ向きの考え方をする人」「勉強嫌いな人」が伸びるとは考えられないから、と語った。

また「思草(しぐさ)は思いがそのまま「行

い」に現れることを意味していると説明し、「傘かしげ」や「うかつあやまり」等の粋な江戸思草を例にあげ、他人への思いやりを持って行動して欲しいと訴えた。

そして福沢諭吉の教えから、礼儀、規律、挨拶など人間としての基本となるものは家庭で教わるものであり、両親のいつけをしっかりと守って欲しいと論じた。



「ポジティブ思考が何より大切」と力説する林社長

第6回 南砺市立吉江中学校

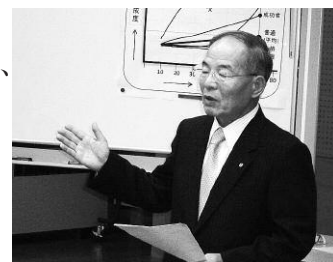
6月18日(金)、高見貞徳氏(株)アイベック取締役会長)が南砺市立吉江中学校において、2年生生徒91名を前に、「夢をもって生きる」と題して課外授業を行った。

高見会長は、「今は、先ず一生懸命勉強して再来年の高校受験に合格すること、そして、将来の就職に向けて高卒程度の基礎学力をしっかりと身につけておくことや毎日少しずつ学び続けることが必要である」と中学2年生として大切なことを論じた。

また、リーダーになるための条件として、自

己中心ではなく、人が自然と集まってくるような他人に好かれ、お人好しの「ヨスマ」になることだと強調した。

最後に、①常に失敗を恐れず、1歩1歩前に進むこと、②自分の強い信念を持つこと、③他人を思いやり、ヒラメキ度を高め、明るく振舞うことの3点を餞の言葉として伝え、課外授業を締めくくった。



「夢とは目標をもって一步一步努力すること」と語る高見会長

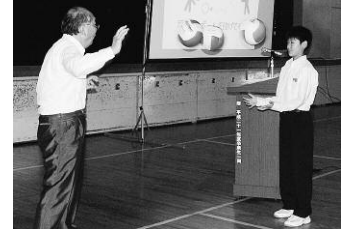
第7回 射水市立射北中学校

7月1日(休)、林和夫氏(朝日建設(株)取締役社長)が射水市立射北中学校において、2年生生徒152名を前に、「学ぶこと 働くこと」と題して課外授業を行った。

林社長は、会話は話し手と聞き手がいることで成り立つもので、コミュニケーションはキャッチボールのようなものだと言った。今回は実際に生徒とボールのやりとりを行って、複数のボールを一緒に投げられると受け取ることができない等、間違ったコミュニケーションのとり方をしてはならない事をわかりやすく実演した。

また、コンピューターに基本情報が入っていないと動かないことに例え、「からっぽの頭から創造は生まれない」と、読み書き算盤・暗記が大切であることを力説した。

そして、阿刀田高氏の随筆から「チャンスや好運はしっかりと待ち構えて準備をしていれば捕らえることができる。ぼんやりしてはだめ。」との教訓を紹介して課外授業を締めくくった。



生徒とボールのやりとりをする林社長

第8回 黒部市立高志野中学校

9月16日(休)、山野昌道氏(株)スカイインテック取締役社長)が黒部市立高志野中学校において、2年生生徒82名を前に、「人生を楽しくする3つのコツ」と題して課外授業を行った。

山野氏は、中学時代から続けているバスケットボールや、大学の頃に30種類以上のアルバイトを経験し、就職時はアナウンサーを志したこと、社会人になってから音楽活動や文筆活動で賞をとったことなど、自らの様々なチャレンジを紹介。

「やりがいのある仕事とは簡単に分かるものではない。まず一歩踏み出してやってみよう。選択に迷った時、どちらが正しかったのかは一

生分からない。だから選んだほうを正解にしていく努力こそ大切だ。沢山のことにチャレンジして、多くの感動とやりがいを自ら作ってほしい」と語った。

また、人生を楽しくするためのコツとして、①迷ったら、やる、②人のせいにしない、③何やってもうまくいく(ポジティブシンキング)、の3つを挙げ、「未来は思った以上に早く来る。一日一日を大切に勉強やスポーツ、芸術に打ち込み、一生の友達を作してほしい」とエールを送った。



「迷ったら、やる!」と語る山野社長

第9回 黒部市立桜井中学校

9月16日(休)、本川祐治郎氏(本川藤由商店副代表)が黒部市立桜井中学校において、11日後に控えた「社会に学ぶ14歳の挑戦」に向け、2年生生徒172名を前に、「社会人としての心構え」と題して課外授業を行った。

本川氏は、まず、「人間との出会いは挨拶から始まる」とし、笑顔で、最高の挨拶の仕方を生徒達に教えた。

また、働くことの意義として、①自立、②成長、③貢献の3点を説明し、「“はたらく”の意味は、端(はた)を楽にすること、つまりお隣さんを楽しめること」と諭し、他人に迷惑をかけず自立して、「何か手伝いできませんか?」と積極的に社長に聞くなどして他人に貢献してほしいと言った。

さらに、「常に、顧客・コスト・時間・目的の4つのプロ意識を持ちながら働くことが大切で、5日間の職場体験でひと回り大きく成長できる」と話した。

最後に、予備校時代の英語教師のアドバイス「決して生涯の仕事“普通(JOB)”で終わらせずに、“ニコニコ働く(WORK)”仕事を見つけ出さない」と紹介し、自身としてさらに付け加えた「“ワクワク働く(PLAY)”働き方をしてほしい」と訴え、講演を締めくくった。



目的意識を持って働くことが大変重要と語る本川副代表

第10回 富山県立魚津高等学校

10月9日(土)、藤井久丈氏(医療法人社団藤聖会理事長)が県立魚津高等学校において、1年生生徒240名を前に、「医療福祉(多職種協働)の世界……自分らしさを生かそう……」と題して課外授業を行った。

藤井氏は、まず、「進路選択において数学が得意だから医者を目指するという科目で職業を決めてはいけない。将来、自分のやりたいことをイメージしてから文系・理系を選択するように」と諭した。

また、自身が医師を目指した高校や大学時代には、人の話を良く聞いたことを紹介し、「人の話を素直に受け入れる気持ちが大切である。これからは進路がそれぞれ違う友達とは様々な局

面で相談できる存在となるため、今の友達を大事にし、またいろんな人とつきあうことが大切」と訴えた。

さらに、「ひとつの進路に固執せず、進路はその時々のお気持ちで変化するので、常にフリーハンドで考えてほしい」と語った。

最後に、医療・福祉職を目指す生徒に対して、「医療福祉の世界は、受験時には理系科目が必要だが、中身は文系的要素が不可欠なので、数学が得意でも諦めずに頑張してほしい」とエールを送った。



医療現場は多職種の協働で成り立っていると語る藤井理事長

第11回 富山市立速星中学校

11月10日(休)、館久晴氏(コーセル株取締役会長)が富山市立速星中学校において、3年生生徒256名を前に、「夢」と題して課外授業を行った。

館会長は、まず、「自分にネガティブな暗示をかけず、他人に負けない自分の強みを早く見つけてほしい。他人の欠点ではなく長所を探すことも大切」と述べた。

続いて「人生は成功体験だけでは成長できない。むしろ失敗を乗り越えて人間は成長する。自分の能力以上のことに果敢にチャレンジしてほしい」と激励した。

また、人は誰かのための役立っていないと生きていく価値がないとした上で、「何で、どんな人のために役立ちたいのかを考えること。一生、誰かのために役立っているかを自問自答してほ

しい」と訴えた。

さらに、自身が会社を創業後、2回の倒産危機を経験し、その2回目の時に「人生は一冊の問題集である」との言葉に出会ったことを紹介し、「人生でぶつかる困難には必ず解ける問題しか与えられない。問題集には必ず答えがあるように、解けるという暗示をかけて逃げずに解決することで、人間の成長に大きな差がでてくる」と諭した。

最後に、「夢は年齢とともに小さくなっていき、夢を無くすことは人生を灰色にする。大きな夢をもち、夢に近づく努力をしてほしい」とエールを送った。



知識を知恵に変えることが将来役に立つと語る館会長

第12回 魚津市立村木小学校

11月29日(月)、中尾哲雄氏(株インテック取締役会長)が魚津市立村木小学校において、4・5・6年生60名を前に、「いつでも夢を」と題して課外授業を行った。

中尾会長は、終戦直前に魚津へ疎開する途中の駅で見知らぬ女性からおにぎりをもらった思い出を紹介。自身が受けた恩義を社会貢献で返したいとの想いで様々な仕事に取り組んでいると語った。

また、小・中学校の頃に「世界中にたくさんの友をもちたい」という夢の実現のため、ラジオ講座で英会話を学んだことや、高校時代は外

交官、先生、経営者、小説家に、大学時代は会社を創って多くの社員と働き社会の役に立ちたいなど、夢を追い続ける自らの半生を紹介。その上で、「夢や希望を持っていると人間は輝いて大きく見える。たとえ叶わなくても夢を持って輝いてほしい」と激励した。

最後に、「これから絶望、失望、落胆などがたくさんあるが、自分の薬になると考えれば必ず成功するので、元気に勉強してほしい」と諭した。



夢を実現するには健康が大事と児童に語りかける中尾会長

第13回 富山大学人間発達科学部附属中学校

12月1日(水)、富山大学附属中学校の「課題設定のための達人講座」において、林和夫氏(朝日建設㈱取締役社長)が福祉分野の講師として1年生の60名に課外授業を行った。

林社長は、まずロータリーの「職業奉仕(Vocational Service)」の語源は「神様の声(Voice)」が「職業(Vocation)」になったと解説し、自身も「会社創業は大変だけど、生まれ育った富山をよくするために頑張れ」との神のお召しを胸に、母親により良い介護サービスを受けたいとの強い思いから介護分野への進出を決断した経緯を説明した。

そして、能力は才能×経験×意欲×考え方

の掛け算であると述べ、イチローが過去に新人王とMVPをダブル受賞した際「結果も大事だけれども、プロセスの方が大切。シーズンを通してベストを尽くすための準備を怠ったことはない」との言葉を挙げ、考え方やプロセスが能力を導き出すために一番大切であると強調した。

最後に、「生きていることには必ず理由がある」との病院看護師からの言葉に感銘を受けたことを紹介し、「何故生まれたか、理由を見つけることが人生である」と力を込め、講演を締めくくった。



創造力は知識から生まれると話す林社長

第14回 高岡市立牧野中学校

12月3日(金)、大橋聡司氏(大高建設㈱取締役社長)が高岡市立牧野中学校において、全学年227名を前に、「夢をもって生きよう」と題して課外授業を行った。

大橋社長は、当会教育問題委員会の活動紹介の中で「海外教育事情視察」に触れ、フィンランドでは小学5年生が「戦争が無い」「福祉が充実している」等の自国の特徴を理解していることや、中国や台湾の中学・高校生の一日の勉強時間が日本の1.7倍程になっている等の事実を説明し、「日本は資源の無い国とされていますが人が資源です。皆さんもがんばりましょう」と激励した。

そして、松下幸之助の「百聞百見は一験にしかず」という言葉を紹介し、「これから進学・就職と進んでいく中で、失敗を恐れずにいろいろな経験を積んでいって欲しい。失敗の数が人生の財産になる」と諭した。

最後に、「働くということは人生そのものを価値あるものにするのであり、人のためになり、自分自身が誇りに思える仕事をして欲しい」と締めくくった。



夢を持つことが何より大切と語る大橋社長

第15回 黒部市立生地小学校

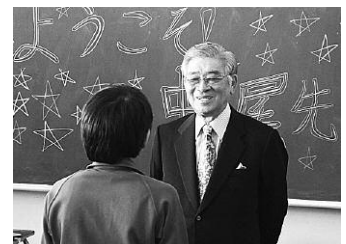
3月4日(金)、中尾哲雄氏(㈱インテック取締役会長)が黒部市立生地小学校において、6年生36名を前に、「思い出 一夢」と題して課外授業を行った。

中尾会長は冒頭、約50年前、生地の浜にあった製塩会社社員と自身を含めた17名で会社を設立したことに触れ、「生地」地域にまつわるエピソードを語った。

そして、自身の「わが家のルール」をいくつか紹介しながら、「社会や学校には守らなければならないルールがあるので勝手なことをやってはいけない」と諭した。

さらに、小学生のころ、苦勞して買った野球の赤バットを川原に忘れ、草むらを必死に探し回り、ようやく見つけ出した時に、涙が溢れ、胸が張り裂ける痛い感動を覚えた思い出を話し、「感動、感激の積み重ねが人生を豊かにする」と強調した。

最後に、「夢は人を輝かせ希望は人を大きくする。身体と心を鍛えて、絆も大事にしてほしい」と卒業間近の児童たちにエールを送った。



児童のお礼の言葉にお礼で返す中尾会長

第16回 富山市立月岡中学校

平成22年度最終回となる課外授業は、3月18日(金)、富山市立月岡中学校において、1年生71名を対象に行われた。当日は「生き方を学ぶ」のテーマのもと、当会から萩原正剛氏（㈱スリー・ティ取締役会長）、川合声一氏（日の出屋製菓産業㈱取締役社長）の2名の講師を派遣した。

萩原会長は「私の歩んだ道」と題して、自身の座右の銘は「精進無涯（努力に涯なし）」であるとし、「生涯自分が貫きたいものを確固として持ち、死ぬまで努力することが大切」と強調した。

また、公共広告のCMでお馴染みの宮澤章二氏の詩「「こころ」はだれにも見えないけれど、「こころづかい」は見える。「思い」は見えない

川合社長は「地域の元気づくり」と題して、五箇山の人々が力を合わせて合掌造りの屋根を葺き替える様子を例に、「人と人や、人と自然との結びつき、その絆を大切にしたい企業風土づくりを目指している」と、“結い”の精神を実現する自社の経営理念を説明した。

その取組みとして、社員が家族と一緒に田植えに参加し、工場祭などを通じて地域の人々との交流を深め、さらには工場での結婚式を社員自ら企画し、ケーキ入刀ではなく夫婦で餅つきをするなど、心をこめた行事を社員が手作りで

けれど、「思いやり」はだれにでも見える」を紹介し、気持ちを行動に移すことが今求められていると熱く語った。

さらに、「今はコンピュータやインターネットなど情報活用能力の習得が不可欠だが、将来はその時代にあったものを逃げず挑戦して学んで欲しい」と訴えた。

最後に、「世の中、当たり前のことを当たり前に行っている人こそ素晴らしい。物事を損得ではなく正しいか正しくないかで判断して欲しい」と諭し、講演を締めくくった。



「顔はニコニコして、腹はしっかり我慢を」と話す萩原会長

実施していることを紹介した。

結びに「仕事とは、人に喜んでもらうことをして、人の役に立つこと。一人だけではできない。皆が笑顔になり喜んでももらえるよう、自分にできることを考え、実践して行ってほしい」とエールを送った。



「人に喜んでもらうことを実践しよう」と語る川合社長